

# 平成19年度 事業計画書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)



学校法人 東京女子医科大学

# 目 次

I. 事業計画策定にあたっての基本方針	1
II. 平成19年度事業計画	2
1. 主要な事業計画	2
(1)第一病棟建築に向けての準備	2
(2)早稲田大学との連携による先端研究教育施設の建設	2
(3)東医療センター 日暮里クリニックの開設	2
(4)医療情報システムの導入・拡充	2
(5)女性医師に対する生涯研鑽のための支援	3
(6)「マスタープラン21プロジェクト」について	3
2. 「教育、研究、医療、経営・管理」領域別の事業計画	4
【教育】	4
(1)東京女子医科大学 医学部	4
(2)東京女子医科大学 看護学部	5
(3)東京女子医科大学大学院 医学研究科	7
(4)東京女子医科大学大学院 看護学研究科	7
(5)東京女子医科大学 看護専門学校	7
(6)図書館	8
(7)国際交流	8
(8)公開講座	9
【研究】	9
(1)先端生命医科学研究所	9
(2)総合研究所	9
(3)実験動物中央施設	10
(4)国際統合医科学インスティテュート (IREIIMS)	10
【医療】	10
(1)東京女子医科大学病院	10
(2)東医療センター	11
(3)成人医学センター	12

(4)膠原病リウマチ痛風センター .....	12
(5)東洋医学研究所 .....	13
(6)青山病院 .....	13
(7)女性生涯健康センター .....	13
(8)青山女性・自然医療研究所 .....	13
(9)遺伝子医療センター .....	14
(10)八千代医療センター .....	14
【経営・管理】 .....	15
(1)中長期経営計画の策定 .....	15
(2)財政基盤の強化 .....	15
(3)組織・制度の見直し .....	15
(4)人事制度の充実 .....	15
(5)情報戦略の策定 .....	16
(6)購買の合理化 .....	16
(7)ファシリティマネジメント .....	16
Ⅲ. 平成 19 年度予算について .....	17
1. 資金収支予算 .....	17
(1)資金収入 .....	18
(2)資金支出 .....	18
2. 消費収支予算 .....	19
(1)消費収入 .....	20
(2)消費支出 .....	20

## I. 事業計画策定にあたっての基本方針

建学の精神、使命、理念に則り、本法人の中長期ビジョンを達成することを基本方針とする。

### <建学の精神>

高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出する。

### <使命>

最良の医療を実践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行う。

### <理念>

至誠と愛

### <中長期ビジョン>～“ビジョン2015”

**先進的、全人的かつ安全な医療の追求を通じて、  
ともに、世の人々の健康に貢献するひとを育成する。**

上記“ビジョン2015”は、これまでの「世界のメディカルセンター」に変わる新ビジョンとして、平成19年1月17日に理事会より発表されたもので、本年度は、その実現に向けた活動の最初の年に当たる。新ビジョンは、大学本来の使命に立ち戻り、より社会貢献を目指すことを強く意識したもので、その名の示すとおり、2015（平成27）年度までに順次達成することを目標としている。

重点施策の策定にあたっては、以下の方針を確認した。

- (1) 社会環境の変化に対して迅速に対応し、健全な大学運営を目指す。
- (2) 非常に厳しい経営状況にあることを念頭におき、収入の確保、経費の抑制を図ることにより、経営の効率化に努めるとともに、教育・研究・医療の更なる充実に取り組む。
- (3) 多くの大型推進案件が進行中であり、全学を挙げて取り組む。（力の結集、情報の共有化）

- ① 本院 第一病棟の建築（H21.10 開院予定）
- ② 本院 入院病棟への電子カルテシステムの導入～第2期計画（H19.5～順次稼働予定）
- ③ 東医療センター 日暮里クリニックの開設（H19.10 開設予定）
- ④ 早稲田大学との連携による先端研究教育施設の建設（H20.4 開設予定）
- ⑤ 八千代医療センターの早期の安定稼働（H18.12 開院）

## Ⅱ. 平成 19 年度 事業計画

### 1. 主要な事業計画

#### (1) 第一病棟建築に向けての準備

- ・ 本院（河田町キャンパス）の病棟施設の更新を図るため、総合外来センター東側に地上 9 階・地下 2 階、病床数約 235 床（延べ床面積約 20,900 m<sup>2</sup>）の新病棟の建築に着手する。
- ・ この施設は、河田町キャンパスの病棟群の再開発計画の第一段階の位置づけである。今後、第一病棟を拠点とし、老朽化・分散化した既存病棟について、更なる医療の質と安全性の向上、患者さんのアメニティー、学生や職員の教育の質向上と共に、経営効率を上げる事を目的として、建て直し計画を立案していく予定である。
- ・ 平成 19 年 8 月工事着工予定、平成 21 年 10 月開院予定。

#### (2) 早稲田大学との連携による先端研究教育施設の建設

- ・ 本学と早稲田大学は、平成 17 年度に共同取得した政策研究大学院大学跡地（新宿区若松町 2-2、7,017.5 m<sup>2</sup>）において、平成 18 年 10 月「東京女子医科大学・早稲田大学先端研究教育施設」の建設に着工した。この施設は、地上 3 階・地下 2 階、延べ床面積 20,062 m<sup>2</sup>。平成 20 年 3 月竣工予定。
- ・ この施設において、本学は先端医科学研究センターを開設し（ハイテクリサーチセンターの認定を申請中）、学内の共同研究拠点としてのみならず、早稲田大学の理学・工学者の知識・技術を融合して、新たな先端医療研究を集学的アプローチにより達成する体制を構築する。
- ・ また、医学と理学・工学の提携による大学院の新カリキュラムにより、生命科学・医工学といった新領域の研究分野で活躍できる人材の育成を目指すとともに、産学連携の共同研究拠点として、新ベンチャー技術の開発推進・新規産業の育成を図ることにより、21 世紀の人類の医療・健康・病気の予防に貢献することを目指す。

#### (3) 東医療センター 日暮里クリニックの開設

東医療センターにおける外来患者数の増加に伴い、外来スペースが狭隘となったために、JR 日暮里駅前に再開発中のステーション・ポート・タワー 4 階・5 階に、総合外来クリニックを開設し円滑な運営の確立を目指す。開設は、平成 19 年 10 月予定。

#### (4) 医療情報システムの導入・拡充

本院の外来部門に引き続き、八千代医療センターでも開院（平成 18 年 12 月）と

同時に電子カルテシステムを稼働することが出来た。今後も、患者さんの診療情報を一元管理し、医療安全と医療の質の向上及び医療記録の標準化を推進するために電子カルテシステムを導入推進する。

- 1) 本院においては、外来部門の導入（平成 15 年 5 月）に引き続き、入院病棟へのシステムを拡充する。（平成 19 年 5 月より順次稼働予定）
- 2) 東医療センター日暮里クリニックにおいては、開院に合わせてシステムを導入する。（平成 19 年 10 月稼働予定）
- 3) 成人医学センターにおいては、オーダーリングシステムを導入する。（平成 19 年 6 月稼働予定）

#### (5) 女性医師に対する生涯研鑽のための支援

##### 1) 女性医学研究者への支援

- ・ 文部科学省科学技術振興調整費による「女性研究者モデル育成」事業に、本学から提案した「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」プロジェクトが採択された。（平成 18～20 年度）
- ・ 女性医学研究者支援室に女性医学研究者支援委員会を設置し、「保育支援システム」及び「研究支援システム」を構築する。「保育支援」によって、本学既存の院内保育室に「病児保育室」を開設し、子育て中の若手女性医師が登録制によって、研究と育児の両立可能な環境を整備する。平成 18 年度末には 70 名の登録があり、順調に病児保育室が稼働している。「研究支援」として、「ワークシェア」、「フレックス制」、研究費の支給によって、子育て中の女性医師に研究の推進、学会発表、論文発表の機会を与え、育児との両立によって研究の遂行を可能とするシステムを構築する。既に 5 名の女性研究者が研究を開始している。
- ・ 平成 19 年度は、女性医師の心のケアのために、臨床心理士による心理カウンセリングを開始する。また、女性医師支援交流会を開催し、講演、討論などを通して交流し、女性医師が気軽に相談ができる場を形成する。

##### 2) 女性医師への再教育

- ・ 女性医師には出産、子育て、あるいは配偶者の転勤などで臨床現場を遠ざかり、復帰の道を断たれる例も多く見られる。そのために「女性医師再教育センター」を設立し、受け入れ先の病院と協力し、多様な再教育プログラムによるオーダーメイドの研修計画による再教育を行うことにより、臨床診療に自信を持ち、再就職を希望する女性が増えることを目指す。なお、対象となる女性医師は本学卒業生とは限らず、地方在住の方は協力病院に紹介する。

#### (6) 「マスタープラン 21 プロジェクト」について

- ・平成 19 年 1 月 17 日全学説明会にて発表した“ビジョン 2015”の実現（『5つの重点課題』の解決）に向けて、理事会の最大のミッションとして新体制のもとで推進する。

ビジョン 2015 : 先進的、全人的かつ安全な医療の追求を通じて、  
ともに、世の人々の健康に貢献するひとを育成する。

- 5つの重点課題：1. 医療関係者の生涯教育システムの構築  
2. 先進的、全人的かつ安全な医療への取り組み強化  
3. 統合をめざし、協働できる風土・システムの構築  
4. 目的指向型運営システムの構築  
5. 組織運営の安定化

- ・2015（平成 27）年度までの 9 年間で 3 年 3 期に分割し、第 I 期（2007～2009 年度）は、組織運営の根幹に関わる課題と、日々の業務効率の向上を優先して取り組む。
- ・第 I 期初年度の平成 19 年度は、上半期に全体的な P(Plan : 計画)－D(Do : 実行)－C(Check : 検証)－A(Action : 改善)体制を構築するとともに、個々の課題解決に向けて分科会を組織し、詳細な実行計画を策定して執行体制を整える。下半期には、各分科会を中心に計画に沿って活動を開始し、PDCA サイクルを回す。

## 2. 「教育、研究、医療、経営・管理」領域別の事業計画

### 【教育】

#### (1) 東京女子医科大学 医学部

##### 1) 学生の質の向上

一般入学試験に加えて、推薦入学試験ならびに指定校推薦制度を取り入れ、将来の医師としての適性判断に重きをおいた入学選抜試験を行う。入学後は、テュートリアル教育と人間関係教育を通じ、人間性豊かな、生涯学び続けていくことのできる医師の育成を目指す。

##### 2) 教員の質の向上

教育の質を高めるための学内ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を活発に行うと同時に、学外のセミナーや講習会への教員の派遣を積極的に進める。また教育活動実績の評価法の確立を目指す。

##### 3) カリキュラムの質の向上

本学の医学教育は、統合カリキュラム、テュートリアル教育、人間関係教育の三本柱からなっており、これを更に発展させて良医の育成に努める。特色 GP 《文部科学省 平成 15 年度特色ある大学教育支援プログラム～「人間関係教育を包含するテュートリアル教育－温かい心を持ち問題解決能力を備えた医師の養成」

(医師のプロフェッショナリズムを含むテュートリアル教育の改良)》は、平成 18 年度をもって終了したので、平成 19 年度は新たな特色 GP に応募する予定である。現在、本学では現代 GP《文部科学省 平成 17 年度現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム～「アイ・アム・ユア・ドクタープロジェクト」(仕事で英語が使える日本人という取り組みについて臨床で患者さんと英語でコミュニケーションする英語力の開発)》の教育プログラムが採択されており、医学教育の新しいあり方を目指している。

#### 4)女性医師育成のためのバックアップ

本学の建学の精神は女性の自立であり、これに基づき女性医学生及び女性医師の教育環境ならびに労務環境の整備に努める。また、女性の特質を生かすことのできる分野の開発に努める。

#### 5)医学教育全般の評価

本学における医学教育のあり方は、学外においても高く評価されており、その結果として現代 GP の教育プログラムが支援対象として選択された。全国に先駆けて実現された本学のテュートリアル教育も、累進型テュートリアルへと進化を遂げ、その成果を挙げつつある。

#### 6)教育環境の整備

本学においては、教育内容の充実に比して、教育環境の整備が遅れている。テュートリアル教育のための教室と教員の数的確保においては、かなり困難な状況が続いており、これを改善する必要がある。また、臨床実習においても、学生の教育用のスペースが極端に不足しているので、新病棟の建設に際し検討する。

#### 7)医学教育改革

平成 17 年度から施行されている C B T (Computer-based testing : 知識を評価する多肢選択問題からなるコンピューター試験)及び O S C E (Objective structured clinical examination : 客観的臨床能力試験)からなる共用試験における本学の成績は、全国平均を上回っており、全体として満足すべきものであったが、現在検討中の“MDプログラム 2010”においては、この状態を維持するための努力を続けつつ、更に質の高い教育プログラムを目指した改革を行っていきたい。平成 19 年度には共用試験と同時期に、本学独自の新しい総合試験 P-SAT (Problem-solving ability test : 問題解決能力試験)を導入して、よりよい臨床実習を行えるようにしていく予定である。

## (2)東京女子医科大学 看護学部

### 1)学生の質の向上

- ・一般入学試験に加えて、推薦入学試験ならびに指定校推薦制度を取り入れ、将来

あらゆる人々に対し、適性判断に基づき質の高い看護を実践できることに重きをおいた入学試験を実施する。入学後は、大東キャンパスと河田町キャンパスの2つの施設の教育環境を生かした教育課程を通じて、人間性豊かな生涯学び続ける看護職者の育成を目指す。

## 2)教員の質の向上

- ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を活発に行うと同時に、学会参加への支援はもとより学外のセミナーや研修・講習会への派遣、海外研修を積極的に進める。
- ・現在行っている学生による授業評価の結果の公開を検討し、教育活動実績の評価法の確立を目指す。

## 3)カリキュラムの質の向上

- ・カリキュラム編成にあたっては、①人間の本質を問う、②生活している人間の環境、③健康障害と生活の調整、④働きかけの基本活動、⑤人間性を育む、⑥各専門領域への発展の6本柱の中に養護教員養成コース科目を位置づけ、学生と社会のニーズに対応するカリキュラム作成に努める。
- ・大学院看護学研究科の大学院生と学部学生との有機的なつながりを通し、専門職として生涯学び続ける素地としての関係づくりに努める。

## 4)教育環境の整備

- ・学籍管理において、効率化に向けたシステムの充実を図り学生への迅速な対応と労務環境の一層の整備を目指す。
- ・今年度から2年生が90名に増加し、教室が狭く学生の学習環境としては好ましくない状況である。出来るだけ早く学生数に対応できる教室の確保が望まれる。
- ・本学部の校舎は、大学院看護学研究科と認定看護師教育センターの教育の一部を併せ行っており非常に手狭のため、限られた物理的環境を改善し最大限効率的に利用する。更に、臨地実習においても、学生の教育用スペースが殆どない状況にあり、新病棟の建設に際し検討する。

## 5)ITシステムの活用

- ・テキサス大学（アメリカ）とのIT化による遠隔授業を実施している。今年度は、特に河田町キャンパスと大東キャンパスとの交流や授業など、教員・学生・職員が授業・業務・研究に日常的に活用できるようにする。
- ・他大学と連携しインターネットを使用したシンポジウムなどを開催できるよう努力する。

## 6)認定看護師教育の推進

- ・透析看護及び手術看護の認定看護師教育センターでは、学位授与機構の単位修得が可能な唯一つの認定看護師教育モデル校として一層充実させる。

## 7)今後検討すべき課題

- ・特に大東キャンパスにおいては、看護学教員による市民を対象とした学習会やサポート活動を推進し、地域に開かれた大学としての市民権を獲得し、相互発展のユニークな大学の拠点を創造するよう努力する。

### (3)東京女子医科大学大学院 医学研究科

医療練士大学院の制度を導入して2年目にあたり、この制度を充実発展させるための具体的な取組が実現しているかどうかを確認する必要がある。本制度の内容充実は、大学院の学生数増加につながるもので極めて重要な課題である。また、早稲田大学大学院博士課程との連携については現在進行中であるが、平成20年度からの実施に向けて、具体的なプログラムの検討を更に推進していく。

### (4)東京女子医科大学大学院 看護学研究科

- ・大学院博士前期、後期課程を含めた自己点検・評価を行う。また、次の3点を中心課題として取り組む。①先端生命看護リサーチリーダー育成プログラム開発、②特色ある教育開発、③大東地域教育プログラム開発。
- ・テキサス大学（米国）など海外とのリアルタイムの遠隔授業は、学生の国際感覚を養い研究者としての広い視野を培っているため更に推進する。
- ・前期課程において、平成19年度からウーマンズヘルスを開設するとともに助産師国家試験受験資格取得のできる科目設定とした。さらに、受胎調節実地指導員の認定科目も設定する。
- ・平成19年度は前期課程に看護職生涯発達学、ウーマンズヘルス、小児看護学を開講し、更に一層の充実に努める。小児看護学においては専門看護師コースも開設する。
- ・学生の研究に対応できるような実験設備の充実を検討する。

### (5)東京女子医科大学 看護専門学校

#### 1)学生の質の向上

- ・学生生活支援体制の見直しを行い学生相談室の活用を促す。
- ・入学志願者確保のために広報活動及び高等学校への訪問を拡大するとともに、入学者選抜方法の検討を行う。

#### 2)教員の質の向上

- ・教育活動評価システムの検討、特に授業評価の見直しを行う。

#### 3)カリキュラムの質の向上

- ・看護基礎教育の改正に向けた現行カリキュラムの検討及び学則改訂の準備を行う。

#### 4)教育全般の評価

- ・ 認証評価機関による外部評価を受審する。

#### 5)教育環境の整備

- ・ 学籍簿の電算化を推進し、入学後から卒業時までの学生情報の統合管理を行う。
- ・ 看護技術の修練と授業効果を高めるために技術教育備品（体験型モデル）と視聴覚教材の充実を図る。
- ・ 経年劣化による建物及び空調機器等の修繕及び機器の交換を行う。

### (6)図書館

#### 1)地域に開かれた図書館活動の推進

患者図書館「からだ情報館」の市民への広報活動を推進する。ビデオ講演会（年3回）、特別展示、広報誌の発行を実施する。

#### 2)情報流通環境の整備（Web版図書館システム利用の促進）

個人用ポータル機能の普及及びOPAC（オンライン目録）機能を拡充してコミュニケーション機能を強化する。

#### 3)本学の歴史資料の収集・保存に努め情報の提供を推進する。

### (7)国際交流

#### 1)医学部

- ・ 平成9年にウェールズ医科大学（英国）と大学間交流協定を締結して以来、協定校の拡充に力を入れ、現在海外の10校と協定を締結し、学生の派遣及び受け入れを行っている。
- ・ 平成19年度には新たに梨花女子大学医学部（韓国）との交流協定の締結を予定しており、教員同士の交流も活発に行う予定である。
- ・ また、新たにマルセイユ大学（フランス）からの交換留学生2名の受け入れも予定しており、1～2ヶ月間の病院実習を目的とした交換留学生の派遣数及び受入数はそれぞれ前年度を上回る約20名ずつを予定している。
- ・ 秀傳記念医院（台湾）との医師の交流も活発に行う予定。

#### 2)看護学部

- ・ ハワイ大学（アメリカ）短期研修：平成13年より実施しており、平成19年度も前年度同様20数名の学生の参加を予定している。
- ・ アルバーノ大学（アメリカ）との交換研修：平成18年度に新たに協力提携を締結し、平成19年度から学生の交流を開始する予定。
- ・ テキサス大学（アメリカ）からのリアルタイムでの遠隔授業：毎年テレビ会議システムを用いた遠隔授業を実施しており、平成19年度も継続して行う予定。

- ・独立行政法人 国際協力機構（JICA）の事業への協力：看護教育に関する研修協力を行っており継続実施を予定している。

### 3)交換留学支援制度募金

- ・平成 19 年度には交換留学支援制度募金の大きな（至誠会及び医学部・看護学部の学生保護者対象）募集を行う。

## (8)公開講座

### 1)第 26 回公開医学講座

医師、コメディカルを対象に開催予定。（平成 19 年 5 月 19 日、於 本学弥生記念講堂）

### 2)第 27 回公開健康講座

一般の方を対象に開催予定。（平成 19 年 11 月 17 日、於 本学弥生記念講堂）

## 【研究】

### (1)先端生命医科学研究所

国内外施設、学内発ベンチャーをはじめ多くの企業間での人材交流、共同研究により、基礎研究にとどまることなく臨床応用や産業化を視野に入れながら、先端技術の教育・研究・開発を行う。

- ・細胞シート工学を中核技術とする再生医療の臨床応用を実現する。
- ・新規バイオマテリアルの開発と医学領域における応用を実現する。
- ・環境負荷を低減する水系クロマトグラフィーシステムの開発を行う。
- ・バイオメディカルカリキュラムなど、真の医工連携、産学連携を達成する人材育成を行う。
- ・平成 18 年度より受託した文部科学省科学技術振興調整費先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム「再生医療本格化のための最先端技術融合拠点」を推進する。
- ・平成 19 年度に終了する 21 世紀 COE プログラム「再生医学研究センター」の総仕上げをおこなう。

### (2)総合研究所

- ・共同利用施設において中・大型機器の購入及び更新を行う。
- ・放射性同位元素実験室にオートラジオグラフィー用試料作成・イメージング装置を設置する。
- ・研究者の増加を図るために、大学院生及び若手研究者を対象とした講習会を企画する。

- ・マウス（遺伝子変異マウスを含む）実験室を設置する。

### (3)実験動物中央施設

- ・動物実験の倫理と実験動物福祉に関する教育・啓蒙を行う。
- ・感染症を主体とした実験動物の質的管理の充実を図る。
- ・遺伝子組換え動物の実験における効率的管理の検討を行う。
- ・関連法規改正などに伴う情報の収集と提供を行う。

### (4)国際統合医科学インスティテュート（IREIIMS）

- ・文部科学省 平成 17 年度科学技術振興調整費の支援による戦略的研究拠点育成プログラム（Super COE）「国際統合医療研究・人材育成拠点の創成」が採択され、国際的に開かれた大学間連携、産学協同の研究体制が開始され、3年目を迎える。
- ・研究分野については、①疾患の包括的遺伝子細胞研究、②超早期診断のための CT、MRI、PET 等の分子イメージング技術の開発に関する研究、③高分子ミセルによる抗がん剤のターゲティング、心血管障害治療の基礎的研究、④疾患の遺伝子変異解析用 DNA チップの開発、⑤特定保健用食品、栄養機能食品、漢方薬などの科学的検証による有効性・信頼性評価、を行う予定。
- ・人材育成分野については、統合医科学情報基盤（CIMI）を活用した人材育成コースをチュートリアル形式で実施する予定。
- ・国内外の参加大学（テキサス大学、上海交通大学医学院、慶應義塾大学、東京大学医科学研究所）との協力協定に基づく連携を強化する。

## 【医療】

### (1)東京女子医科大学病院

#### 1)質の高い安全な医療の提供

- ・先端医療・専門医療の推進を図るために、新しい治療法と研究開発を推進し、疾患別専門外来の設置を行う。
- ・クリニカルパス・EBM（Evidence-based medicine）の推進、医療記録の標準化、医療機器の中央管理化、物品管理・医療材料・薬品の統合化を図る。
- ・「特定機能病院」の再認定を目指す。
- ・日本医療機能評価機構による医療機能評価の認定取得のための準備を行う。
- ・がん診療連携拠点病院の指定を受けるための整備を図る。
- ・医療記録の標準化を推進し、病棟へ電子カルテシステムを導入（第2期計画）して情報の共有化を図る。
- ・電子カルテシステム、オーダーリングシステム、部門システムを推進し、成人医学

センター・青山病院との IT 連携の充実を図る。

- ・リスク・マネジメント(RM)システムの充実を図る。

## 2)患者さんの満足度の向上

- ・情報公開とインフォームドコンセントを徹底するとともにホームページ等の充実を図り広報活動・体制を強化する。
- ・患者満足度調査を含め患者さんの声を積極的に病院運営へ反映する。  
(外来待ち時間の短縮、外来予約システムの改善、給食サービスの改善等)
- ・第一病棟の建築準備を推進する。(平成 21 年 10 月開院予定)

## 3)医療環境の改善と人材育成

- ・各科病床稼働率等を考慮した病床数の適正化を検討する。
- ・卒後臨床研修センター、研修プログラム・研修評価体系の充実を図る。インセンティブ制度、表彰制度等の導入を検討する。
- ・病院職員の意識改革を図る。
- ・マナー教育の充実及び接遇の向上を図る。

## 4)経営基盤の安定

- ・病床稼働率の向上、在院日数の短縮、医療連携の推進により安定した医療収入を確保する。
- ・購買の合理化及び購入価格の削減、後発医薬品の導入を推進すると共に、コスト管理の徹底を図る。
- ・病院経営管理資料の整備・充実・評価体系の構築を図る。
- ・病院事務職員の人材育成を推進する。

## 5)その他

- ・医師の勤務体制の標準化を図る。
- ・組織、会議、諸制度の点検・見直しを図る。
- ・医療機器の更新及び先進医療機器の導入を図る。

## (2)東医療センター

### 1)質の高い安全な医療の提供

- ・睡眠時無呼吸外来の拡充及び高齢者外来(アンチエイジングドック)の設置を行う。
- ・オーダーリングシステム導入計画の検討。
- ・医療情報の一元化を推進する。

### 2)患者さんの満足度の向上

- ・患者さんの声を積極的に病院運営へ反映する。  
(外来待ち時間の短縮、外来予約システムの改善、給食サービスの改善等)
- ・2、3号館及び第二医局棟を解体し、跡地は緑化・駐車場として整備する。

- ・防火管理体制の整備強化と非常放送設備の改善を図る。
- ・東京都条例による「地球温暖化対策提出書」及び「第二種エネルギー管理事業所」に沿った省エネルギー対策と CO<sub>2</sub> 削減対策を推進する。
- ・広報活動として東医療センターのホームページのリニューアルと日暮里クリニックホームページの新規作成をする。

### 3)医療環境の改善と人材育成

- ・臨床研修センター室の充実を図り、研修教育の推進を図る。
- ・看護師の募集体制を確立する。
- ・看護師、事務職員、医療技術職員の教育、研修を推進する。
- ・マナー教育の充実及び接遇の向上を図る。

### 4)経営基盤の安定

- ・病院経営管理資料の整備・充実・評価体系の構築及を図る。
- ・在院日数の短縮、病床の適切な運用、医療連携の推進により医療収入の拡大を図る。
- ・購買の合理化及び購入価格の削減を推進し、経費節減対策の強化を図る。

## (3)成人医学センター

- ・オーダーリングシステムを早期に軌道に乗せ、本院とのオンライン化により施設間の情報交流を推進し、業務の効率化及び患者サービスの向上を図る。
- ・各診療科において診療体制の充実を図り、患者の利便性を高め併せて患者増を図る。
- ・時代のニーズに合わせ、中高年者層を対象とした新たな健診コースを設けるとともに、きめ細かなサービスを展開することで受診者を獲得する。
- ・老朽化した空調機器を更新し、アメニティーの改善を図る。

## (4)膠原病リウマチ痛風センター

- ・関節リウマチの疫学調査である IORRA を継続させ、データ解析を更に行う。これにより学会発表、国際誌発表はもとより、最良治療法の発見、患者さんに合った治療法の実施、医師の品質管理（QCD: Quality control of doctors）を行う。
- ・オーダーメイド医療の項目を継続するとともに、膠原病の薬物についても研究を推進する。また、研究結果を論文、学会、マスコミを通じ発表し、当センターの診療の安全性と効率性を説明する。
- ・診療日当日に検査結果を伝え、患者様へのサービス向上を図る。
- ・学生教育として PPP（Patient partnership program: 患者参加型学生教育）を継続する。
- ・卒後リウマチ学教育として ITCR（Integrated training course of rheumatology:

リウマチ学を志す全国の医師が当センターで1～2年の研修を行う)を継続する。

#### (5)東洋医学研究所

- ・ 診療待ち時間や診療体制など患者さんの視点に立ったサービスの改善に取り組む。
- ・ 卒煙指導、皮膚指導、薬膳指導を継続することにより、東洋医学の特性を踏まえた看護の提供を行う。
- ・ 豊富な臨床症例を生かし近代医学的な観点と同時に、東洋医学的な視点から臨床研究を行う。未病という観点から、特定の地域住民を対象とした健康調査を行い、将来の健康行政に寄与出来るようなフィールド研究を推進する。
- ・ 健康な抗加齢に対して漢方医学の立場から健康状態を把握する健診はほとんど行われていないことから漢方ドックを設置する。

#### (6)青山病院

- ・ 健診システムの見直しを行い生活習慣病予防、早期発見を柱としたものにし、生活指導については個人の特徴を考慮したオーダーメイド治療を行う。
- ・ 予防医学及び難病治療に対する先端治療の研究を推進する。
- ・ 本院との連携強化を図り、双方の病床の有効利用を推進する。また、診療情報についてもデジタル化・ネットワーク化を図り本院との情報交換が容易に行われるようにシステム構築を行う。
- ・ 事務部門を中心としたIT化（予約システム、医療連携システムの確立）により、患者さんへのサービス向上と業務の効率化を図る。

#### (7)女性生涯健康センター

- ・ 女性医師の再教育を推進する。
  - ①当センター主体で行う女性外来短期型専門家育成コース（受講・見学・スーパーバイズ下での外来）を確立する。
  - ②本学女性医師再教育センターへの協力を継続する。
  - ③メルボルン大学（女性の健康学マスターコース）をサポートする。
- ・ 女性の Well aging（健やかな加齢）に関連する診療・研究・教育を推進する。
- ・ 本学学生のための相談室機能を強化するために、医療・心理両面からの専門相談室を設ける。

#### (8)青山女性・自然医療研究所

##### 1)女性医療

- ・ 専門医療としての抗加齢美容医療の確立と研究を推進する。

##### 2) 統合医療

- ・相補・代替医療の実態調査を実施し、更なる公的研究費を確保する。
- ・中国との共同開発サプリメントの中国における臨床試験を実施し、国際的共同研究を推進する。

#### (9)遺伝子医療センター

- ・遺伝子研究の進歩を、ベンチ（研究室）からベッドサイド（診療現場）へ応用するための窓口となる体制を整える。
- ・遺伝性疾患の遺伝カウンセリング後のフォローアップを更に充実し、受診者の心のケアを十分に行う体制を整える。また、学内・学外の医療機関との連携の充実を図るとともに、遺伝子検査の技術の向上、効率化、検体管理体制の強化を図る。
- ・臨床遺伝専門医の認定研修施設として、遺伝子医療に携わる専門職の養成を行う。
- ・本学と早稲田大学との融合大学院（H20.4開学予定）における遺伝カウンセリング専門職養成コースの設立準備を行う。

#### (10)八千代医療センター

昨年12月8日に開院、155床にて入院病床を稼働させているが、入院予約患者数の増加等に伴い、平成19年4月1日付にて使用許可病床を264床（109床増床）とする。看護師の確保を更に推進して、当年度中に病院許可病床355床のフル稼働を実現し、地域中核病院としての機能を発揮し、かつ高度先進、急性期医療の充実を目指す。

##### 1)質の高い安全な医療の提供

- ・高機能診断機器(画像・内視鏡など)の利用による正確な診断技術の確立と更なる研究・開発を行う。
- ・クリニカルパスを導入し医療の標準化と効率化を推進する。
- ・地域医療機関との医療連携パスを作成し、後方医療機関の確保を推進する。

##### 2)患者さんの満足度の向上

- ・入院患者さんのサービス向上のためのベッドサイドモニター（床頭台設置モニターや説明用コンテンツ類）機能の充実を図る。
- ・入院及び外来患者さんに対する定期的な患者満足度調査を実施し、医療連携により早期に退院（転院）した患者さんの追跡調査、満足度調査を行う。
- ・公開健康講座の開催（年2回）や健康夏祭りの開催等を実施し、健康情報の発信基地としての役割を果たす。

##### 3)医療環境の改善と人材育成

- ・安定した病院運営・経営と安全な診療環境の構築、更なる診療レベル向上のために、看護師の確保、離職率の低下、卒後教育プログラムを充実し、魅力的で活力

のある病院環境を構築する。

#### 4)経営基盤の安定

- ・当年度内での許可病床の全床稼働、年度初頭からの看護基準7対1看護を実現し、医療費の収入向上を推進する。
- ・産科医療の充実、正常出産件数の増加に向けたセミオープンシステム、オープンシステムを推進する。
- ・高規格医療機器（画像診断系機器、内視鏡系機器）を地域医療機関が利用できるように“共同利用”の促進を図る。
- ・バランススコアカード（B S C）評価の導入及びデータウェアハウスの活用により、病院経営指標の構築・整備を図る。

### 【経営・管理】

#### (1)中長期経営計画の策定

- ・「マスタープラン 21 プロジェクト」により法人全体の将来構想（中長期マスタープラン）と、それを達成するための中短期先導プランを作成する。
- ・ブランド戦略及び広報戦略を策定する。

#### (2)財政基盤の強化

- ・法人全体の将来構想策定に基づく収支見込計算書ならびに資金計画を策定し、健全な財政基盤の確立を目指す。
- ・経費削減への取り組みを継続し、医療収入の安定確保を図り収支の改善を推進する。
- ・公的補助金（競争的研究資金も含め）及び外部資金の積極的な獲得を目指す。また、公的補助金の適正管理を徹底する。

#### (3)組織・制度の見直し

- ・教育・研究活動について認証評価機関による第三者評価を受審する。
- ・業務プロセス改革及びコンプライアンス推進体制の強化を図る。
- ・勤怠管理の改善を目指し、全施設へタイムレコーダーを導入する。

#### (4)人事制度の充実

- ・人事制度及び給与制度改訂についての検討に着手し、答申案をまとめる。
- ・教育職を除く全職種における管理職・監督者の研修を実施する。また、管理職に対しては所属長、同僚・部下、自己の3方面（3D）からの評価を行う。
- ・職員の健康管理の充実を図る。

(5)情報戦略の策定

- ・ IT ガバナンス体制、情報推進体制を強化・確立する。
- ・ 広報戦略の一環としてホームページの充実を図り、学内・学外への情報公開を推進する。

(6)購買の合理化

- ・ 電子購買システムを導入することにより、事務の効率化・合理化を推進する。
- ・ 全学的に最適な購買体制の検討を行う
- ・ 教育・研究活動に対する支援体制を構築する。

(7)ファシリティマネジメント

- ・ 防災、防犯業務を主体とした危機管理体制の見直し及び安全管理の徹底・推進を図る。
- ・ 「地球温暖化対策計画書制度」に基づき東京都へ提出した「エネルギー削減計画」（5カ年計画）の目標達成に向け、3年目の計画を実施する。

### Ⅲ. 平成 19 年度予算について

平成 19 年度の法人予算編成にあたっては、帰属収支における支出超過を是正し、健全な財政に立て直すことに主眼を置いた。八千代医療センターは実質、開設の初年度にあたり、開設費用の負担が大きいいため、法人全体では平成 19 年度の収入超過は見込めないが、既存施設での収支均衡を目標とし、4 年間続いている帰属収支の支出超過からの脱却の足掛かりとする重要な年次として位置付け、予算策定を行った。

事業計画に基づく予算編成は 2 年目を迎え、昨年度の反省を踏まえて予算申請書様式を大幅に改訂し、各施設から提出される事業計画の中から、平成 19 年度の重点施策に沿ったプロジェクトを中心に選別し予算を重点的に配分する方針とした。

収入目標は、帰属収入の 8 割強を占める医療収入の動向が、収支状況に大きく影響することから、各医療施設には数値目標の達成を示達した。

支出については、人件費について業務内容の見直しを含めた定員の適正化と時間外手当の削減に努め、経費については、さらなる経費削減に努めることを目標とした。

その結果、法人全体の帰属収支は 9 億 6 千万円の支出超過となる厳しい予算となったが、八千代医療センターを除く既存施設の帰属収支では 8 億 8 千 7 百万円の収入超過となり、財政再建への光明が見えてきた。

しかしながら、引き続き厳しい状況であることから、現在の経営環境を全職員が認識し、限られた財政の中で効率的な運営が図れるよう各部門においては、財政支出の見直しに積極的に取組み、事業目標が達成出来るよう努めなければならない。

#### 1. 資金収支予算

#### 平成19年度 資金収支予算書

収入の部				支出の部			
科 目	19年度予算	18年度予算	差額	科 目	19年度予算	18年度予算	差額
学生生徒納付金収入	4,189	4,093	96	人 件 費 支 出	38,388	34,739	3,649
寄 付 金 収 入	1,377	1,088	289	教育研究経費支出	34,502	29,991	4,511
補 助 金 収 入	5,710	5,098	612	管 理 経 費 支 出	2,772	2,228	544
資 産 運 用 収 入	1,355	1,197	158	借入金等利息支出	279	212	67
事 業 収 入	1,615	1,411	204	借入金等返済支出	6,909	5,213	1,696
医 療 収 入	66,708	60,191	6,517	施 設 関 係 支 出	4,900	10,187	△ 5,287
借 入 金 等 収 入	7,439	8,593	△ 1,154	設 備 関 係 支 出	4,558	7,075	△ 2,517
そ の 他 の 収 入	10,448	12,387	△ 1,939	そ の 他 の 支 出	6,167	6,478	△ 311
前年度繰越支払資金	2,188	5,024	△ 2,836	予 備 費	500	500	0
				次年度繰越支払資金	2,055	2,460	△ 405
合 計	101,033	99,086	1,947	合 計	101,033	99,086	1,947

(注記) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## (1)資金収入

### ・学生生徒納付金収入

医学部、看護学部、看護専門学校とも在籍者数に入学定員数を加えて算出し、41億8千9百万円を計上した。

### ・寄付金収入

平成20年4月に開設予定である東京女子医科大学・早稲田大学先端研究教育施設建設費及び平成21年10月に開院予定の第一病棟建設費に対する募金活動を開始し、目標15億円に対し初年度5億円を見込み、前年度比2億8千9百万円増の13億7千7百万円を計上した。

### ・補助金収入

東京女子医科大学・早稲田大学先端研究教育施設に対するハイテクリサーチセンターの補助金申請を予定しており、前年度比6億1千2百万円増の57億1千万円を計上した。

### ・事業収入

平成18年度から継続する科学技術振興調整費「国際統合医療研究・人材育成拠点の創成」(SuperCOE)、「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」及び「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」等に係る収入を見込み前年度比2億4百万円増の16億1千5百万円を計上した。

### ・医療収入

平成18年12月に開院した八千代医療センターの稼働病床数増による収入増のほか、外来部門では、東医療センター日暮里ビルクリニックのオープン(平成19年10月予定)による収入増、入院部門では本院・東医療センターにおける7対1看護体制の継続ならびに八千代医療センターでの7対1看護体制の採用、さらに在院日数の短縮等の施策による収入の拡大を見込み、前年度比65億1千7百万円増の667億8百万円を計上した。

### ・借入金等収入

東京女子医科大学・早稲田大学先端研究教育施設建設資金調達のための借入金収入30億を含め、74億3千9百万円を計上した。

## (2)資金支出

### ・人件費支出

八千代医療センターの稼働病床数増による職員数増により、前年比36億4千9百万円増の383億8千8百万円を計上した。

・教育研究経費支出

教育・研究に係る経費を除いた医療経費については、前年比5%削減を目標としたが、八千代医療センターの稼動病床数増に伴う支出増加が見込まれるため、前年度比45億1千1百万円増の345億2百万円を計上した。

・施設関係支出

教育・研究部門に対する支出として東京女子医科大学・早稲田大学先端研究教育施設建設費用に26億円、弥生記念講堂改修工事に1億4千8百万円、医療部門に対する支出として東医療センター日暮里ビルクリニックの建設費用に7億4千7百万円、既存医療施設の空調設備改修工事等2億7千6百万円など総額49億円を計上した。

・設備関係支出

教育・研究部門に対する支出として東京女子医科大学・早稲田大学先端研究教育施設に係る機器購入に4億円、科学技術振興調整費に係る機器購入に1億8千3百万円、医療部門に対する支出として、本院医療情報システム（第二期電子カルテ）に10億5千万円、東医療センター日暮里ビルクリニック開設に係る機器購入として3億1千7百万円、その他医療機器更新費用として23億8千4百万円、経営・管理部門に対する支出として、勤怠管理及び経営分析・予算管理のためのシステム導入費用7千万円などを見込み、総額45億5千8百万円を計上した。

## 2. 消費収支予算

### 平成19年度 消費収支予算書

収入の部				支出の部			
科 目	19年度予算	18年度予算	差額	科 目	19年度予算	18年度予算	差額
学生生徒納付金	4,189	4,093	96	人 件 費	38,513	34,994	3,519
寄 付 金	1,441	1,188	253	教育研究経費	34,502	29,991	4,511
補 助 金	5,710	5,098	612	管 理 経 費	2,772	2,228	544
資産運用収入	1,355	1,197	158	減 価 償 却 費	6,549	6,006	543
事業収入	1,615	1,411	204	借入金等利息	279	212	67
医療収入	66,708	60,191	6,517	その他の支出	135	833	△ 698
その他の収入	972	914	58	予 備 費	200	200	0
帰属収入	81,992	74,094	7,898	消費支出合計	82,953	74,467	8,486
基本金組入額	△ 7,452	△ 8,166	714	収 支 差 額	△ 8,413	△ 8,538	125
消費収入	74,539	65,928	8,611	合 計	74,539	65,928	8,611

(注記) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

帰属収入－消費支出	△ 960	△ 372	△ 588
-----------	-------	-------	-------

以下に、資金収支と重複する科目を除き、主な項目について説明する。

## (1)消費収入

### ・ 寄付金

現物寄付金 6 千万円を見込み前年度比 2 億 5 千 3 百万円増の 14 億 4 千 1 百万円を計上した。

### ・ 帰属収入

借入金や預り金などの負債とならない収入を表す帰属収入は前年度比 78 億 9 千 8 百万円増の 819 億 9 千 2 百万円となった。

### ・ 基本金組入額

基本金組入額は、前年度比 7 億 1 千 4 百万円減の 74 億 5 千 2 百万円を計上した。

### ・ 消費収入

基本金組入後の消費収入は、前年度比 86 億 1 千 1 百万円増の 745 億 3 千 9 百万円となった。

## (2)消費支出

### ・ 人件費

退職金に対する退職給与引当金取崩額と退職給与引当金繰入額を調整し、385 億 1 千 3 百万円を計上した。

### ・ 減価償却費

平成 18 年に開院した八千代医療センターの建物、機器等に係る増加、本院、東医療センターでの建物改修工事等に係る増加により前年比 5 億 4 千 3 百万円増の 65 億 4 千 9 百万円を計上した。

### ・ その他の支出

平成 19 年度は東医療センターの建物除却額等 5 千 8 百万円を見込んだが、前年度は本院脳神経センター解体工事、及び東医療センター 2・3 号館建物解体工事にかかる除却額として 7 億 3 千 6 百万円計上していたことから、前年比 6 億 9 千 8 百万円減となった。

以上の結果、消費支出合計は 829 億 5 千 3 百万円となり前年比 84 億 8 千 6 百万円の増加となった。

帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は、9 億 6 千万円の支出超過となったが、八千代医療センターを除いた既存施設の帰属収支差額は、8 億 8 千 7 百万円の収入超過となり、前年度と比べ 10 億 5 千 9 百万円の収支改善となった。基本金組入れ後の消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、前年比 1 億 2 千 5 百万円減の 84 億 1 千 3 百万円の支出超過となった。

学校法人 **東京女子医科大学**

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号

TEL 03(3353)8111(代表)

<http://www.twmu.ac.jp/>